

# オキナワモズク盤状体冷蔵保存による 発芽生育試験

## 1. 目的

沖縄県水産業改良普及員 諸見里 聡

オキナワモズクの養殖においては、早期の母藻確保が重要な要素であり、現在、種板として越夏保存したものを網に種つけし、早期母藻用として養殖漁場に張り出している。

しかし、この方法では種板の管理が困難で、不安定な面を持っている。

その点を改善するため、アサクサノリ養殖で実用化されているノリ網冷蔵保存法を応用し、昭和60年度技術改良試験が実施された。

その成果をうけ、普及事業へ移すために本実証事業を実施した。

## 2. 実施時期、場所

- ① 実施時期 昭和61年4月～62年3月
- ② 実施場所 糸満市
- ③ 協力者 糸満漁協 大城 隆  
知念漁協 吉田一夫  
沖縄市漁協 金城正恭・与那嶺馨

## 3. 材料、方法

- ① 採苗 種板 (24×9 cm) 30枚  
採苗タンク (タル型70リットル)  
採苗水槽 (45×20 cm)  
モズク母藻 知念産、糸満産
  - ・採苗はタル型タンクとガラス水槽を使用し、通常の採苗方法で種板に採苗した。
- ② 冷蔵保存 冷蔵庫 ショーケース型冷蔵庫  
光源 40W×2本 蛍光灯  
ビニール袋(厚手 74×51 cm)
  - ・種板を10枚ずつ重ねて3セットごとに2重にビニール袋で密閉し、少量の海水を入れ、冷蔵庫に保管した。
  - ・冷蔵庫の温度は+5℃にセットした。
  - ・種板の冷蔵保存期間中は蛍光灯の光を照射した。

- ③ 網付け 養殖網 ポリ系ノリ養殖網 (18 × 1.5 m)  
 採苗タンク (タル型 70 リットル)  
 ヒーター 石英管ヒーター (100 W) 水温 23°C にセッ
- ・冷蔵保存した種板を取り出し、10枚ずつ 3 回に分けて養殖網に種付けした。
  - ・種付け期間は 20 日から 40 日間で、顕微鏡で種の付き具合を見て冲出した。

#### 作業の手順

- |            |                     |
|------------|---------------------|
| 61年 5月 29日 | 第 1 回盤状体採苗 (知念産)    |
| 6月 17日     | 第 2 回盤状体採苗 (糸満産)    |
| 8月 12日     | 冷蔵保存開始              |
| 10月 17日    | 第 1 回養殖網採苗開始 (採苗不良) |
| 11月 18日    | 第 2 回 " " (良好)      |
| 12月 23日    | 養殖網冲出し、養成開始         |
| 3月 18日     | 収穫試験 (3 網、405 kg)   |

#### 4. 結 果

- ① オキナワモズクの種板冷蔵保存では採苗時点で盤状体を濃く付ける (茶褐色になる程度) ほど結果が良いことが既に報告されている (瀬底 1986) が、今回の試験では薄付けになった。
- ② 早期の母藻は得られなかったが、3 網から 405 kg の収穫を得たので冷蔵保存による採苗の目的は達成できた。

#### 5. 考 察

- ① 今回の試験では初期の目的である早期母藻は得られなかったが、冷蔵保存盤状体から種付けした網から 405 kg と大量のモズクが収穫できたのは初めてであり、冷蔵保存は充分できたものといえる。
- ② パンライト保存では雑藻の処理等の保存管理が容易でなく、たびたび失敗をすることがあるが、冷蔵保存では管理が簡易であり、大きな利点といえる。そのため、大量に保存することにより、早期母藻用としてではなく、本養殖用として利用することも可能であろう。

#### 6. 参考文献

- ① 瀬底正武 オキナワモズク盤状体の冷蔵保存及び網糸の構成別による生育試験 (1982)  
 昭和 56 年度水産業改良普及活動実績報告書 (沖縄県)
- ② " " オキナワモズク盤状体及び種網の冷蔵保存試験 (1986)  
 昭和 60 年度水産業改良普及活動実績報告書 (沖縄県)

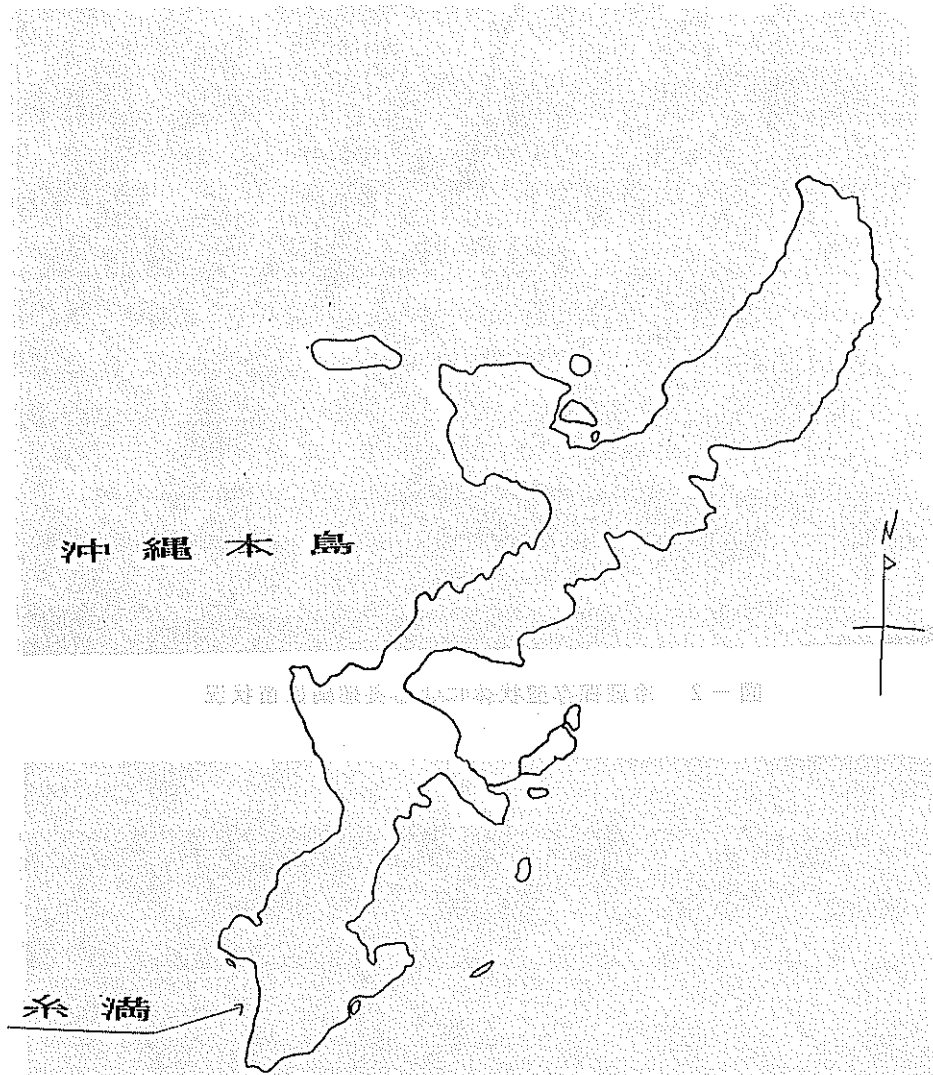


图-1 試驗實施場所

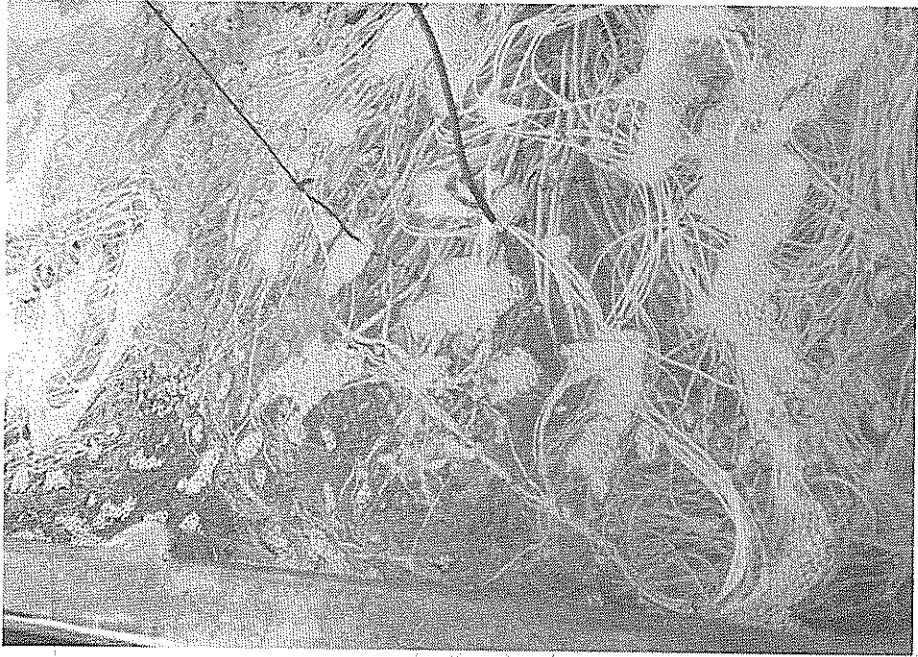


図-2 冷蔵保存盤状体による養殖網採苗状況

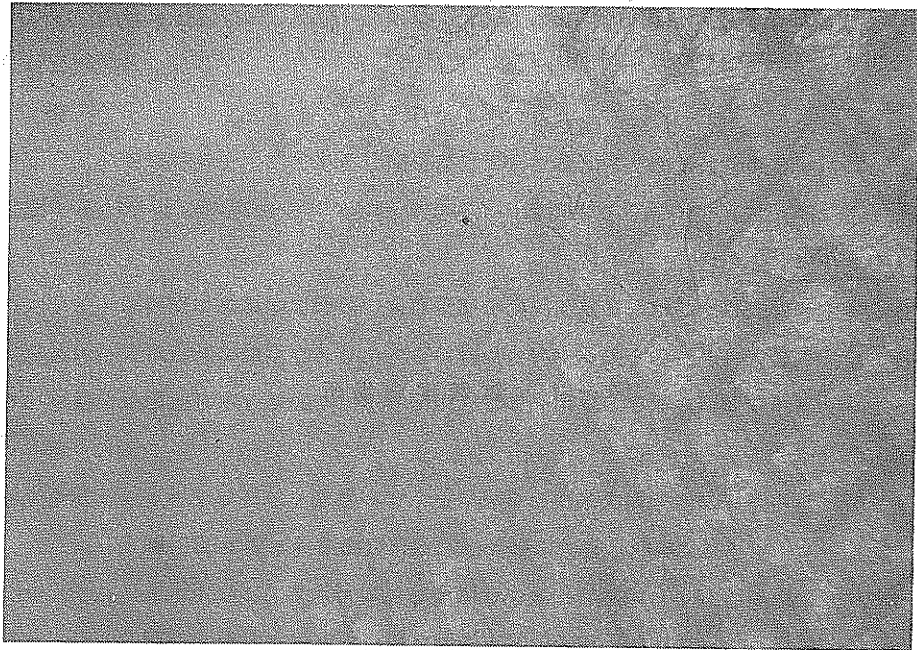
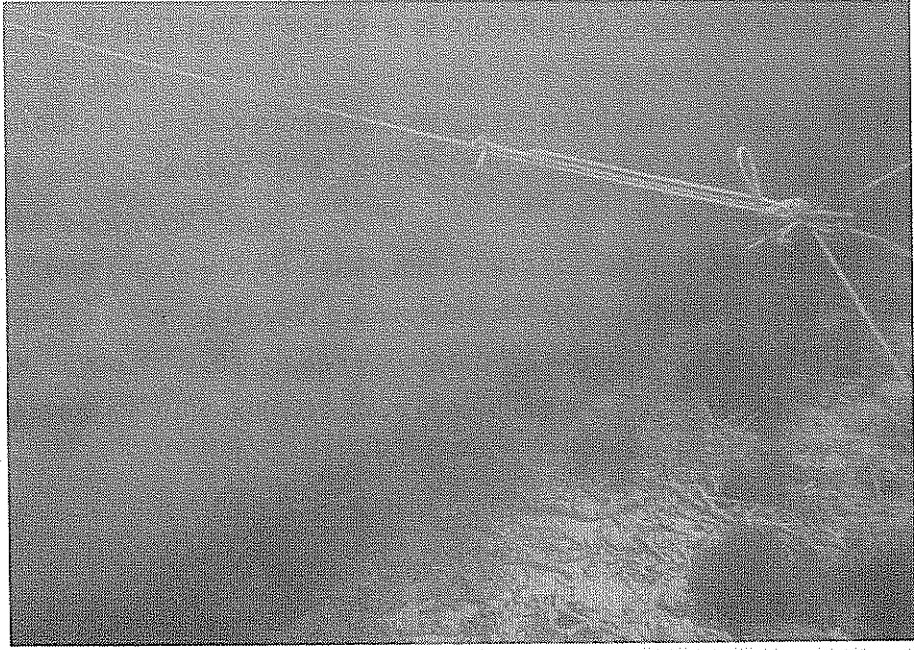
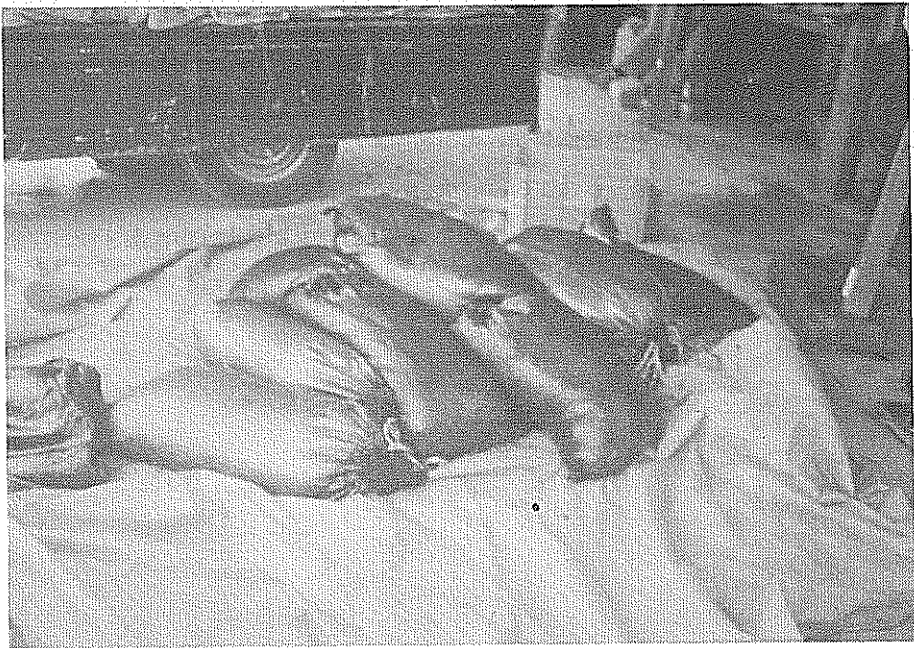


図-3 沖出した網の育苗状況



図一4. 収穫前の養殖網



図一5 冷蔵盤状体を使用して養殖し、収穫されたオキナワモズク